

### 「来たれ、来たれ、エンマヌエル、 囚われのイスラエルを開放せよ……」

これはおそらく最も有名な降誕節の賛美歌であり、クリスマスシーズンがやってくるといふ思いで私たちが満ちし始めてくれる賛美歌でしょう。

しかしこの賛美歌は、ある問題を提起しています。マテオによる福音書には、「エンマヌエル」とは「神はわれわれとともにまします」という意味であると書かれています。（マテオによる福音書 一：23）だから、私たちはその歌の中で、「来たれ、来たれ、すでにわれらと共にいます神よ。」と歌っていることになるのです。もし神が私たちと共にいるのであれば、なぜ私たちは神が来るように求めているのでしょうか。」

その理由は、神が来れば、神が私たちを変えて下さるからです。そして、私たちは自身の信仰によって、自由にその変化の過程を妨げたり、遅らせたり少しずつ開いたり出来るので、私たちに必要な変化が常に見えることになりません。神は実際私たちをあるがままに愛して下さいますが、その愛はあまりにも大きくて、私たちが現状のままであることを許してくれませんか。私たちが神から受け取ることで出来るものはもっとたくさん

あり、私たちが神について知ることのできることはもっとたくさんあり、私たちが捨てることのできる古い制度ももっとたくさんあり、私たちが生きていくキリストの恩寵ももっとたくさんあるのです。神は世界のあらゆる場所に

来ることを望んでおられ、私たちの生活をあらゆる面を変えたいと望んでおられます。私たちは以前に神を受け入れはしましたが、私たちがまだ神を招いていない隠された部分があるのです。「来たれ、来たれ、すでにわれらと共にいます神よ。あなたが私たちを変えたいことをまだ許していない場所に来たれ。来て、私たちがまだ執着している罪を取り除きたまえ。来て、私たちがまだ持っていない思いやりと美徳を私たちに与えたまえ。」

いつも、神から受け取るべきものはもっとたくさんあります。神はいろんな方法でやって来られます。創造されたものとの関係を通して、祈りを通して、苦しみを通して、ボランティア活動を通して、そして聖書を通してなど、さまざま方法でやって来られるのです。私たちが神に、来て「囚われのイスラエルを解放する」ように求めます。神は私たちが個人的に、そし

て社会として解放して下さいます。従って、神が来るように祈ることは、ただ待つて、来るのを楽しみにすることだけを意味するのではありません。それは、そのために準備をし、邪魔にならなっている障害物を捨てることを意味するのです。

私たちが救って下さる神の訪れの準備をするために、私たちの社会に必要な一つの重要な方法は、お互いを救うために、そして人間の全ての抑圧を取りのぞくために、着実に努力をすることです。「ここで極めて必要とされているのは、胎児の保護を回復することです。中絶によって子どもを殺すことを許す権利を求めることは、やって来る神の支配を認めないことです。それは、神がやって来てもたらす正義を拒否することです。」

美しい賛美歌の「さやかに星はきらめき」の「真に、神は私たちにお互いを愛するように教えたもうた。神の掟は愛であり、神の福音は平和である。」という歌詞の中に、そのことがまとめあげられています。

フランク・ベイウオン

### 小さいるばの祈り

いつでも  
重い荷物を背負って  
遠い道を  
どこまでも  
たたかれないながら  
歩くようにと  
定められた神よ。  
どうかわたしに  
勇気とやさしさを  
お与えください。

あらわすすべもなく  
ただからかわれている  
わたしのことも  
いつかはだれかに  
わかってもらいたいです。  
泣くことばかりを  
望まなくてもすむように……  
おいしいあざみをみつけたら  
拾って食べる時間を  
与えてほしいのです。

そして主よ、  
どうかもういちど  
会わせてください、  
あのクリスマス之夜  
かいばおけに眠りたもうた  
わたしの小さいきょうだいに。

カルメン・ヘルネス・ネ・ガストルト

# クリスマスにおけるキリスト

12月はクリスマスの月。喜びあふれる季節ですが、同時に欲求不満の季節でもあります。仕事も会社も多忙、喜びもあれば苛立ちもあり、人々は贈り物を買つのに奔走し、食べ切れないほどのごちそうを作り、テレビは特別番組を流し、聞こえてくる歌といえばクリスマスキャロル、そしてついには、早くこのクリスマスが過ぎて、普通にもどればいいのに！という事になってしまつたのです。

この時期が一年中で一番いい季節だという人もいれば、反対に最低の季節だという人もいます。多くの人、特に敬虔なクリスマスチャンにとっては、ある疑問を抱く季節でもあります。クリスマスをこんなふうに通つて、本当によいものだろうか、と。

クリスマスは祝つことを全く否定する人もいます。クリスマスは異教徒の祝日で、それを祝つことは、偽りの神々を崇拜していることになるのだということです。その根拠に忠実に従つて、彼らはクリスマスツリーもプレゼント交換もすべて異教徒のすることであるとして反対してい

るのです。

実のところ、キリストの誕生日がいつなのか定かではありません。中には生まれたのは十月で、しかも紀元前3年(あるいは紀元前5年)だったとする説もあります。教会でキリストの誕生日を祝つた記録が残っているのは、教会の歴史が始まつて大分経つてからのことです。

最終的には、二つの要因が重なつてクリスマス休暇が生まれました。一つは、教会内でキリストの誕生日記念日が必要だという強い要望があったこと。もう一つは、真冬に休暇を取ることが社会に浸透していったことです。

この真冬の(クリスマス)休暇は、異教の神と豊饒神を崇拜するためのものでした。人々は酒を飲み、結婚し、豊饒神の儀式を行い、性も寛大に扱われた季節で、クリスマスチャンにとっては参加できないものでした。そこで彼らは休暇を改革しようとした。既に存在しているこの休暇を利用して、キリストの誕生日を祝う休暇に変えようとしたのです。こうして異教の祝祭はキリストの祝祭(クリスマス)に変

化したのでした。

その後キリスト教が広まるにつれ、古い異教の神は忘れられていききました。異教の神を崇拝した経験のない世代が増えてきたからです。クリスマスは次第にキリスト教独自の休暇として認められるようになりました。

それでも異教の習慣は残っていました。そこでクリスマスチャンは、ユールログやその他の木を使う異教の習慣を、キリスト教にとつて意味のある木に変えようとした。そして、キリストの不变の象徴として常緑樹を選んだのでした。

神に贈り物をする(休暇を延長してもらうための賄賂として)という異教の習慣の代わりに、食物や燃料、お金などを貧窮者に与えるという習慣ができました。(どうやら私達は、この真にキリスト教的な観念を、贈り物を与える人にだけ贈り物をするという大変自分勝手なものに歪めてしまったようです。)リースやキャンドル(今日では電気が主ですが)を飾るなど、昔の様々な習慣は残っていますが、それが異教のしきたりによるもので

あることはすっかり忘れられてしまいました。これらは全てキリスト教のシンボルに変わってしまったのです。

古いしきたりに従つてこれらの飾り付けをすることが、異教の神を崇拝することになるのでしょうか？私はそうは思いません。というのも、私達はそうと知らないままに、または偶然に、真の神様を崇めることはありません。それと同じく、異教の神に対しても、知らないうちに崇めているという事はありえないのです。当然のことながら、異教の神より真の神様の方がずっと力があり、説得力もあるのです。

クリスマスがこれほど完全にキリスト教のものに変わってしまったので、今日では世界中どこでも「キリストこそがこの季節を祝う理由なのだ」と考えられています。私達みんなが、その人生、文化、そして国家においてのキリストの意味を思い返す絶好の機会となっています。そしてキリストを否定する地域においてても、この救世主の誕生の真実を伝えるまたとない良い機会なのです。

ですから、私達はこれを「改宗した」祝日のまま維持していかなければなりません。どんなことでも(例えばクリスマスを「Xマス」に変えるなど)、キリストをクリスマスから切り離そうと

する動きには抵抗しなければなりません。また、この季節によく見られる自己中心的な風潮や商業主義をなくすべく努力すべきです。そして、サンタクロースを人格化する傾向(「君が眠っているか起きているか、サンタクロースにはお見通し/いい子にしてたかどうかもみんなわかっているんだよ」という歌のように)にも抵抗しなければなりません。精神的な深みを得、この祝日のそもそもの理由であるキリストに対し、新たななる献身を捧げる時にすべきなのです。

クリスマスをめぐる誤解のうち、(不愉快にならない程度に)いくつかは正した方が良いでしょうが、ほとんどは大切なことではありません。どれも本質的にこの祝日の主である「神はひとり子を与えたもうほどこの世を愛された。それは、彼を信じる人々がみな滅びることなく永遠の命を受けるためである。」(ヨハネによる福音書3章16節)ということを損なうものではないからです。

なんとすばらしい祝祭なのでしょう。ぜひ、クリスマスチャンらしいクリスマスを通して下さい。



ビル・ホールステッド

# 未来への希望

私が誕生した日は、決してよろこびの日ではなかったという気がしてなりません。誰もそのようなことを、私に言った人はいないのですが、これは事実だという気がします。

真夜中の私の誕生は、障害児が生まれると思ってもらえなかった産科医にとつて、冷たいシャワーのようなものでした。そのような悲劇に用意していた言葉もなく、「あなたのお嬢さんは残念ながら生きるとはしょう」と彼はうっかり言ったと父が記憶しています。

母は、看護婦が私を彼女の所に連れてくるまで三日待たされたことと記憶しています。彼女は悪の事態を予想していたので、看護婦の緊張した腕の中で、私が寝返りを打つたのを見て、「植物ではなく、愛しいもの」と感じたことに驚きました。「あなたの大きな茶色い目が、飛び出してきて、私の心の周りを包んだのよ」と母は言っています。

三月のあの寒い日に病院を去る時、ピンク色の毛布は、私が重症な未熟児、すなわち、左手には水掻きがあり、股も膝もなく、合

計で10本ではなく5本しか足指のない未成熟な2本の足を持つ子どもであるという事実を覆い隠すことはできませんでした。

両親は私の不完全な身体が、彼らの絶望の淵に沈んだ心に重くのしかかる、終わり無き質問と比べると、軽く感じたといえます。その質問とは、娘は死んでしまつたのではないだろうか、娘は人生を楽しむことができるのだろうか、というものでした。

家族は、そのような質問に費やす時間がない中、私を受け入れてくれました。足に水掻きのある赤ちゃんのおしめを次から次へと変えるうちに、最初の衝撃は和らいでいきました。人々の「赤ちゃんを抱かせて」と言うかわりに黙ってしまつのに、母は怒りを覚えましたが、次第に驚きを感じなくなりました。涙、重労働、笑い、信念、失敗そして成功が、それから先の年月を埋めていきました。

数えきれないほどの医師との面会、手術、そして最終的に特殊教育への通学とスケジュールが毎週一杯になりました。しかし、私たちがみんな息を止めた人生を変えるべき出来事は、私が10歳の時

に訪れました。私は矯正手術を受け、「足」に義足をつけました。私は生まれて初めて高く立ち上がり、私の木の足と一緒に病院の通路を散歩しました。そして、しばらくして、私は退院しました。

それから、私の足と私は、誰もできる想像し得なかった領域へと入っていきました。学校のダンスパーティー、運転免許の習得、キャンプでの夏休みのバイト、大学、そして女子学生の特別寮は、私の青年期を感動で身震いさせました。そして、イリノイ州立大学の6年間の後のほかに、言語病理学の修士学位がありました。その同じ月の終わりに、私はデービッド・スクワイア夫人になりました。

これらの画期的事件は、私の三人の娘の誕生によって、小さな小さな出来事になりました。神は私が失った全てのもの以上のものを償ってくれました。私はただ歩けるようになっただけでなく、走り、縄跳びをし、サッカーもできるようにになりました。娘のピアノ発表会を聴きに行き、彼女の10本の指が鍵盤の上を

すばしこく踊るように動いているのに、私は見入りました。この人生の旅のどこでも、神は私を祝福してくれました。

今日、樫のファイル・キャビネットの中の「重要書類」と書いたフォルダーの中に詰め込まれているのは、あなた方と一緒に分かち合いたい言葉です。この選ばれた碑銘は、何故、障害のある人々の生活に価値があるのかが必要されています。

『障害を持った人々は、神の真の姿を表すための、最もふさわしい視覚的援助者なのです。神の力は、弱さの中に一番良く表れるのです。そして、世界の基準でいうと、身体的且つ精神的障害者以上に弱いものがあるでしょう。これらの人々が忍耐しているのを世界の人々が見るでしょう。彼らは生き、愛し、信じ、神に従っているのです。結局、世界はこう言わざるを得ないでしょう。『彼らの神はこのように忠誠心を起こさせるとは、なんと偉大なのだろうか』と。

ジュディス・スクワイア

## 技術の進歩

『沈黙の叫び』を見て考える  
最初に見た方の受精のは、神秘的です。いいことだと思いましたが、中絶のビデオは、人それぞれに考え方があるとは思いますが、私は賛成にも反対にも分かりません。だけど、もし私がそのような立場になったなら、中絶はしないと思う。それは、胎児を一人の人間だと見ているし、きちんと成長しているからです。

ビデオの中での話しはもちろんです。事実だし、胎児も育っているのは分かるけれども、中絶が全世界で定着してきている事も事実として、私達は受け止めて考えていかなければなりません。技術の進歩のお陰で、私達は昔よりも向上した生活が送られて、幸福になりつつあるけれどもその一方で、技術の進歩は私達に悪影響を及ぼしていると思えます。これから先、技術はますます進んで、私達により良いものを与えてくれます。しかし、現在の悪影響が更に悪いほうへ進んでしまつたのではないかと思うと、考えただけで残酷だし、恐ろしい事であると思います。私達は今後、中絶という問題をいろんな方面から考えていくべきだと考えました。

(T・Mさん、高三生)

# 今まで見えなかったものが見える効果

彼等の月満ちて生まれた赤ちゃんは検視の結果、健康だったことが判明したので、18才のカップルが殺人の罪で、拘留されています。検視によってその赤ちゃんは、「鈍器で殴られたことによる頭蓋骨骨折」で亡くなったことがわかりました。その十代のカップルは第一級殺人で告発され、今拘留されているのです。母親のエイミーと父親のブライアンは二人とも大学生ですが、高校時代からの付き合いでした。ブライアンはエイミーの出産の手助けをしました。警察は、捜索犬の助けを借りて、のちに大学近くのゴミ箱の中のグレーのビニールのゴミ袋の中に入れていた死体を発見しました。

中絶と殺人：その差は紙一重

ブライアンとエイミーの事件は国中に衝撃を与えました。多くの人が、なぜ中流家庭の二人のカップルが中絶しようとしなかったのかと不思議に思いました。子どもが生まれる前に中絶をしておけば、殺人罪で告発

されなかったらとうと複数の記者が書いています。出産の数時間前の中絶でも、その子のいのちを静かに終わらせることができたでしょうし、またニュースになることもなかったでしょう。

私達にはよく「見え」ていないのです。

今日でさえ、胎児を殺すことに対する考え方は、目に見える生まれた赤ちゃんを殺すこととは決定的に違っているのです。母親の胎内から赤ちゃんが生まれてくるまでは、その子はひとりの人間とは考えられていないのです。

非常に幼いものの死が、私達が「見える」能力を取り戻す手助けとなるかもしれません。

私達は、無条件に胎児を中絶することを正当化するために、胎児をまだ人間ではない、あるいは人間でないと地位に落とすことに慣れているのです。しかし、生まれた子どもがそのように扱われているのを見れば、ぞつとするでしょう。パーシャル・バース・

アポーションは、実際見たくない胎児についての現実に私達を直面させています。私達、キリスト教徒にとっては、それは、「神が自分の姿に似せて人を創造した」という真実に私達を直面させるものなのです。それは、私達がその現実に目を閉ざしている時も、私達の良心の中に、神が、わが母の胎内で私達を組み立てられ、まだ出来上がらない私たちの体を見られている。(詩篇一三九：13、16)という知識をよみがえらせているのです。

しかし、社会は違った「見方」をするよう決断するかもしれませんが。

懐疑的な世界観に「神の姿」は存在しません。私達は、友達の間を借りれば、「一度も間違ったことをしたことのない二人の善良な子どもたち」であるエイミーとブライアンの決断に対して社会的圧力がどのようになるか、よく考えてみるべきです。数年前に、生まれた赤ちゃんが生きべきか死ぬべきかについての

適切な決断を私達が下せるまで、少なくとも二、三日は新生児を人間であると認めるのを延期すべきであるという提言をしたのは、ノーベル賞受賞者のジェームズ・D・ワトソンでした。そして、中絶の論理はきつと私達をその次元まで運んでいくでしょう。キリスト教徒として、私達はそのような考え方を逆転させよう。真実のみを守らなければなりません。

「あなたは私の腎をつくり、母の胎内に織り込まれた。おそろべき驚異のあなたを、私はたたえる。

そのみ業は不思議で、あなたは私の魂を知りつくされる。

私の骨はあなたに隠されていない、私がひそかにつくられ、地の深みでぬいとりされたとき。

あなたの御目はすでに私の行ないを見、それはあなたの書の中にあつて、日々が記され、集められた、一日さえもまだなかったのに。」

(詩篇一三九：13、16)

テリー・シュロスバーク

純潔をテーマとする

十代の演劇集団

「女を扱う術なし」(原題：No Way to Treat a Lady)という芝居の一場面である。マリーという少女が、妊娠してなお恋しか見えなくなっている様子で登場する。「彼は年上で、とつてもカッコいいの。彼もね、愛し合う方がいいの。お互いの愛情を示し合うのを、なぜためらう必要があるのかって言うてるわ。」とマリーは聴衆に訴えかける。

別の声も、彼女に厳しい答を投げかける。「示し合うことはできる、でも」とその声は続く。「かわいそうに、マリー、君みたいな無知な女の子が、男の子にセックスでしか愛を示せないと思われているんだよ」

これは身近にありそうな状況下で、純潔・周囲のプレッシャーを克服する法・流行に流されない忍耐などを都市部の学生達に教えるために活動する、南カリフォルニア州の十代の演劇集団によるの舞台の一節である。

このファントム・プロジェクトの役者は皆、実際に直面したプレッシャーや状況を舞台上に反映させている。舞台を観た後、中学生達は自分自身が抱える悩みを堂々と語れるようになる。

「我々の舞台の目的は、自制心

(5ページへ)

# いのちのための自由

プロ・ライフ主義と自由主義を同時に貫くのは可能だろうか？

選ぶ権利に固執するプロ・チョイス派のようにではなく、「女性の選ぶ権利」を応援しない限りどんな自由も名ばかりで、本当の自由主義とは言えない、というのが彼らの意見である。

しかし、現実には、何千どころか何万もの自由主義者が中絶に反対している。真の意味での良き自由主義者達である。

私もそのひとりで、市民権の向上・女性への平等な賃金体系・すべての人々への社会保障・ホームレスや失業者や高齢者への支援活動などに精力的に取り組んでいる。胎児についてももちろん、ホームレスや失業者や高齢者達と同様に、経済力も社会的権力もなく発言できずにいる人達を支えていくつもりでいる。

だが、胎児も人間とみなしてよいものか？

これには二つ考えられる。子宮内で成長する胎児は、れっきとした人間であるとの見解と、原形質の小塊にすぎないとの見

解である。半人間は存在しえないから、その中間はありえない。

プロ・チョイス派が、成長過程の胎児は人間ではないと証明できるのなら、彼らの説は正しいことになるが、証明できないならばプロ・ライフ派の説が正しいことになる。

その理由を次の例え話で説明しよう。

狩りに出たハンターは、深い茂みの中で動く物体に狙いを定める。鹿に違いないと、彼はほぼ確信していたが、千分の一の確立で人間かもしれないと思う。だが、この機会を逃したくないと彼は狙った場所に銃弾を打ちこむ。

彼は過ちを犯したのだろうか？

イスラム・ユダヤ・カトリック・ヒンズー、どの宗教の教義に照らしても、ハンターは、狙った獲物が人間でないと確信していないから答えは彼は過ちを犯しているとなる。千分の一でも、十億分の一の確立だろうとも、人間かもしれないのに、人間として最低限備わっているモラルに従えば、銃で打つことはできな

いだろう。たとえ一兆分の一の可能性でも同じ事のはずである。

プロ・チョイス派でさえも大半が人間と認めている胎児に、なぜ同等の尊厳が認められないのか？なぜ胎児ばかりが「細胞組織」にすぎないと軽視され続けるのか？

その理由は、我々の社会のリーダー達にあると思う。彼らが展開する「情に訴えかける戦略」は、何が正しくて何が正しくないかではなく、何が人々にマインズで何がプラスかを基準に物事を決めていく。つまり、中絶によって貧しい女性を子育ての苦勞から救い出せたり、裕福な女性が対面上のゴタゴタを裂けられるなら善しとしている。同様に、肉体的欠陥をもつて生まれる子どもを減らし、人口爆発を救うための中絶も正しいとされる。

悲しいことに、こうした議論を持ち出す政治家の中には、支持層を広げるといふ見返りを求める者も少なくない上に、多くの有権者がそれに従っている現実がある。

ハンターが森の中でとつた行

(4ページから)

という言葉に集約される「劇団のプロデューサー兼ディレクターのステイヴ・シスネロ氏は語る。「セックスしたいと考えるのは自然な事だし他の人達の様子や何をしているかが気になって仕方ないのもわかる。うちの役者達も同様に、周囲のプレッシャーを経験してきている」

舞台の効果は上々で、ニューヨークやアリゾナなど各州の学校から公演依頼が来ている。役者達は6校の学校から集まっていて、学校での成績もよく、週末にリハーサルをこなし、公演のために授業を欠席する許

動が正当化されないと同様に、胎児が人間でないと証明を完全に成し遂げた者はいない以上、中絶はどんな状況下でも過ちであり、正当化することはできないと思う。

社会全体がプロ・チョイス派の論理を捨て、プロ・ピープル(「プロ・ライフ」)型の社会を築くべきである。幼児保護や養子制度の充足をはかり、非力で優遇されない者たちへの医学・社会・教育上の措置を急ぐべきである。最も小さく、最も弱き神の創造物が抹消されぬよう、与え守ってやるのが自由主義者の真の使命である。

マイク・カミングス

可も得ている。

「十代は家族に頼り、愛されていると常に実感できる環境にいたるべきだが、最近はそのようではなくなってきた。彼等の周りには、暴力やセックスやアルコール等、愛にかわるものが溢れている」とゲヴィルツマン氏は言う。

ルウィーン・ロータ

世界平和の日メッセージ抜粋

人間のいのちは、私たちの好きなようにしてよい対象物としてではなく、地上で最も神聖で、侵し難い実在と見なされるべきです。この最も基本的な善が守られないなら、平和などあり得ません。いのちを軽んじながら平和を希求することなどできるはずがないのです。私たちの時代は、いのちへの奉仕についての寛容さと献身の輝かしい模範を目の当たりにしてききましたが、それと同時に、冷酷さや無関心のためにつらく、厳しい運命にさらされる数億人もの人々の悲しい姿をも見てきました。それは、殺人や自殺、人工妊娠中絶、安楽死...などのことです。さらに列挙する必要があるのは、クローニングや研究などの無責任な遺伝子工学的操作です。こうしたことは、自由や文化の発展、人類の進歩などを一方的に訴えることで正当化されようとしています。

ヨハネ・パウロ二世

# プロ・ライフ資料紹介

407 ビデオ

## 『いのち美しいもの』

文部省選定

生命尊重ビデオ II

(日本語 27分 ¥20,000)

今月12月にはクリスマスがあります。御存じのように、救い主、イエズス・キリストの誕生を祝うクリスマスの大きなテーマはいのちと愛です。

「高校生のセックスについてどう思う？」と一度尋ねて御覧なさい。若者達の多くはこのような答え方をします。「愛があれば、たとえ高校生でもセックスしてもいい」。そしてまた、進歩的と自負している大人達は、「今の若者は体が以前より発達しているし、社会全体の風潮がこのようになっていから、現実をしっかりと見て、避妊さえきちんと教え込めば...」若者達のことをいとも理解しているよと言わんばかりに答えるのです。

ここにある『いのち美しいもの』という一つのビデオは10代の高校生のディスカッションで始まります。そのディスカッションは上でのべたように彼等は『愛があれば』と思っている様です。確かにいのちは愛から出発します。その愛をマザーテレサは次のようにある時述べられました。「...その子は、小さな砂糖の瓶を持ってきました。ほんの少しだけの砂糖を、でも大きな愛です。愛と言うのは、どれだけの量ではなく、どれほどの心をこめて愛するかなのです。...」

それでは、私達はどのような心を持てば良いでしょうか。それは生命尊重の心ではないかと思

ます。『待つ心!』今は、美しいかけがえのない、たった一つのいのちを育てられないと理解した時は待つこと、それは、二人がお互いに愛しあっていることではないでしょうか。このことを若者達に私達は伝えたいのです。

学校教育やPTA活動の中で、または、青年学級で、是非このビデオを見て話し合ってみて下さい。様々な場面が皆様に考えるヒントを与えてくれるものと思います。

日本プロ・ライフ・ムーブメント

### 【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 ..... 無料 ..... + 郵送料

### 【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
- [202] 第二の処女生..... + 郵送料
- [203] デート..... + 郵送料
- [204] どうするの?..... + 郵送料
- [205] "NO"という技術..... + 郵送料
- [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
- [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
- [208] していましたが..... + 郵送料
- [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
- [210] 貞節のすめ..... + 郵送料
- [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

### 【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
- [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン .....200円 + 郵送料
- [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス .....500円 + 郵送料
- [305] 胎児の人権宣言カード .....30枚=100円 + 郵送料
- [306] ミニソフィア Ace エース(税別).....7980円 + 郵送料

### 【ビデオ+本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta)....7000 + 郵送料
- [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
- [407] 命美しいもの = one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
- [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
- [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS)...15000 + 郵送料
- [411] (コース・セミナー)エイズ時代の性倫理...(VHS)...3800 + 郵送料
- [500] (本)生命問題に関する...(カトリックの教え)...2987 + 郵送料
- [501] (本)自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料
- [503] (本)プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
- [504] (本)小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
- [505] (本)いのちをみつめて.....500 + 郵送料
- [506] (本)命あるすべてのものに(マザー・テレサ)....660 + 郵送料
- [507] (本)私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
- [508] (本)いのちの福音.....1500 + 郵送料
- [509] (本)小さき生命のために.....1300 + 郵送料
- [511] (本)赤ちゃん:最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
- [512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
- [513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
- [514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
- [515] (本)経口避妊薬:ピル.....100 + 郵送料
- [516] (本)いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料
- [517] (本)フマネ・ヴィテ.....300 + 郵送料

[511] 赤ちゃん:最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬:ピル

注文:	1 - - - - 5	1部 = ¥100
	6 - - - - 20	1部 = ¥75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥50
	1000 - - 以上	1部 = ¥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

(本)フマネ・ヴィテ

1 - - 30	1部 = 250円
31 - - 100	1部 = 200円
101 - - 以上	1部 = 150円

パンフレット申し込み

1 - - 5	1部 = 35円
6 - - 100	1部 = 25円
101 - - 500	1部 = 20円
501 - - 以上	1部 = 15円

は自由です  
組み合わせ

# 十代の性 (19)

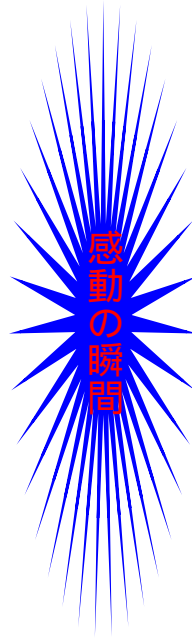
質問：学校を卒業するまで彼女をつくってほしくない  
と両親は言います。デート  
してはいけないという意味  
なのでしょうか？

デートを重ね、  
親しくなったら？

## Q&A

答え：ご両親が彼女をつくるなど言うのは、集中力が散漫になるのを心配してだ  
と思います。とても重要な  
ことです。ほどほどに交際  
するという自己管理が、十  
代の間はなかなか出来ない  
ものです。

けれどもそれは、デートをするなど言っている訳ではありません。デートとは他の人と出かけることです。今のうちに男女問わずいろいろな人と関わって、交友の輪を広げ、後年役立つ処世術を身につけましょう。男と女がふたりきりで会うだけがデートではないのです。十代のうちはグループ交際が望ましいでしょう。その方がのびのびと自分らしくつきあえるでしょう。同じ状況下でも人によって反応が異なることがわかり、自分の理想の女性を見出すのに役立つはずです。



私は大分以前に心のもしびを通して、プロ・ライフ・ムーブメントの活動について知りました。すばらしい活動だと思います。

私はナスで、ある健診センターでアルバイトをしていた時、問診を通して、いかに多くの人々が、人工妊娠中絶をしているか知り、とてもショックを受けました。中には「17回」と言つ人も、「数多くて忘れました」と言う人までいました。

妊娠の瞬間から生命がはじまるということ、皆自覚していないのでしょうか。

私は大学のビデオで受精の瞬間に卵子にカルシウムイオンの波が走るのを見、とても感動しました。この瞬間に魂が宿ると実感したのです。大学の他の多くの同級生が共通して、この瞬間が一番感動したということでした！

私も心から、皆様の活動を応援したいです。私にできることを教えてください。

東京 T・Kさん

# 日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062 高知市新本町一丁目7-31

電話 / Fax 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

For English Speaking People / evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforiyoma.or.jp

## 会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

## 事務所時間:

月・金 10:00 - 17:00  
土曜日 休み  
日曜日 休み

## 御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

現在口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

## クリスマス

### おめでとうございます

今年も一年が終わろうとしています。皆様、お元気ででしょうか。今年一年間、事務所に頂いた恵みを思い出し、感謝を捧げます。

ニュース入れ、封筒への切手はり（今はハン押し）、ラベルはり、糊貼り、そして、今は郵便番号を上から5桁で同じものをそれぞれ輪ゴムとめ、郵便番号ごとに枚数と番号を記入したり、家や事務所でのボランティアの方々の支えによってこの運動は動いています。また、遠くの方々や事務所に来れない人々からの金銭的な支えにこの運動は助けられています。

今まで、色々な出来るだけ美しい記念切手を貼り、それを眺めてこころのゆとりを皆様にほんの少しでもお届け出来ればとの思いで、感謝とお返しのお気持ちで続けてきましたが、それも段々難しくなってきました。ハンを押しただけの封筒は受け取った人にとっては味気ないでしょうが、郵便局の仕事をごなすことにより、少し郵便料をうかせる方を取ることにしました。資金面での行き詰まりはどのような良い運動でも止めざるを得なくなる苦しい状態となります。弱いのちを支えるために啓蒙教育に取り組み重要性を御理解の上、なお一層の皆様からの金銭的御援助をお願い申し上げます。

切手スポンサーとして、また、この運動全体（コンピュータや印刷機やコピー機の維持管理、ニュース代、翻訳料など）の寄付として、月々や年一回か二回など送る方法も色々ありますが、コンスタントにお送りいただければ有り難いです。下の振り込み用紙を切り取って下さっても、上の振込番号を使って、郵便局や銀行からお送り下さっても結構です。

一回きりの寄付も小さなのちに喜びとなりますでしょう。誰かにお声をかける努力をお願い致します。

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)